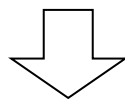


令和6年度 矢渕中学校教育基本方針

1. 学校教育目標

『「支え合い・高め合い・学び合う」学校の創造』
～なかまとともに探究し、自己を高める生徒の育成～

☆自己を高める生徒の育成：[キーワード] 協同・探究・創造



| | 協 同 | 探 究 | 創 造 |
|-----|------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 学校像 | 誰一人、独りにしない学校 | 卓越性を追求する学校 | 未来を拓く学びを創造する学校 |
| 生徒像 | 自他を大切に、協同できる生徒 | なかまとともに協同しながら、自ら考えを深め、表現する生徒 | 自律的に判断し、よりよい未来を創造する生徒 |
| 教師像 | 想いをひとつに、学び合い、つながり合う教職員 | 質の高い学びの実現に向け、探究する教職員 | よりよい教育を共創する教職員 |

2. 教育経営方針と目標

(1) 一人残らず学びの権利を実現する。

- ① きめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着と応用問題に挑戦する生徒の学びを推進する。
- ② 「質と平等の同時追求」によって、生徒の学びの質を高める。
- ③ 質の高い授業、学び合う授業づくりに向け、授業を省察し、授業の改善に努める。
- ④ 生徒の状況を捉え、自ら取り組む教育環境を学校全体(チーム)で推進する。

(2) 生徒一人ひとりの良さを認め合える教育活動を進める。

- ① 生徒たちの主体的で対話的な活動を大切にし、取組を推進する。
- ② お互いを尊重し、相手の立場を想像できる子どもたちの取組を推進する。
- ③ 自らの生き方や自己の未来を創造するための協同する取組を推進する。

(3) 家庭や地域と連携し、「地域とともに育つ学校づくり」をすすめる。

- ① 家庭や地域への情報発信や各家庭との交流を積極的に行う。
- ② 地域の一員として生徒や教職員が地域の方とあいさつ、話をする機会を積極的にもつ。
- ③ 保護者・地域・学校がともに「学びの主体者」として教育活動に参画する機会をもつ。
- ④ 学校運営協議会や育友会役員会において保護者・地域・学校が連携し、子どもたちの育成について熟議を進め、学校運営の改善に反映させる。

(4) 「想い」(教育目標)を共有しチームで協働する学校運営体制を構築する。

- ① 教育機関と連携し、同僚性を発揮しながら学校運営に携わる「チーム矢渕」を構築する。
- ② 生徒の成長に教職員がやりがいを持ち、保護者とともに支援する運営体制を構築する。
- ③ 教職員自身が自分の健康に留意しながら、安心して働ける学校を構築する。

3. 教育経営方針に基づく具体的目標

(1) Aグループ 一人残らず学びの権利を実現する。

代表：長嶺 1年：宮澤 2年：石垣 3年：加藤・野地本

①きめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着と探究する学びを推進します。

☆ペアやグループでの学習を通して、協同的で探究的な学びを推進します。

○「探究の学び」を推進します。

探究の学びとは生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、なかまと意見交換・協同しながら進めていく学習活動のことです。

○習熟度別指導を充実させ、子ども一人ひとりが「わかる楽しさ」や「互いに高め合う楽しさ」を実感できる授業を目指します。

○県教育委員会と教職員が作成している「ワークシート」、「学 Viva セット」を日頃の補充学習や家庭学習、長期休業期間等で活用します。

○端末機器による e ラーニングを活用します。

☆②「質と平等の同時追求」によって、生徒の学びの質を高める。

☆魅力ある課題（教材）や学ぶ価値のある課題について研修し、生徒の学び質を高めます。[課題と授業デザイン]

☆生徒が表現する中身を問い直し（授業の省察）、生徒の能動性（意欲・認知・感情）から「協同と探究」による学びの検証をおこなう。

③質の高い授業、学び合う授業づくりに向け、授業を省察し、授業の改善に努める。

☆公開授業研究や校内研修を通して、生徒の学びの様相から授業を省察し、授業改善に努めます。また、GIGA スクール構想に基づく Chromebook と電子黒板の効果的な活用方法および学びを深めるための活用方法を学び、推進します。

○全国学力学習状況調査やみえスタディチェックが子どもたちにとって励みとなるような年間を通しての教育活動を進めます。

○他校の視察や授業研究会へ積極的に参加し、よりよい指導方法を学びます。

☆教育関係機関に授業を観ていただきアドバイスを受けることで、専門性を高め、質の高い授業実践につなげます。

④生徒の実態を踏まえ、自ら意欲的に学ぶ生徒を育成します。

○定期テスト前5日間は、学習計画や反省、担任との懇談、放課後の自主的な学習への取組を推進します。

○キャリア教育と関連した目的意識を高めるための学習や自学ノートの効果的な取組を推進します。

○生活アンケートや毎日の心の健康観察チェックを行い、子どもの心の状況を最大限把握し家庭との連携に努めます。

○アンケートや教育相談を拡充し、個々の生徒の思いや背景をとらえ、生徒の実態や生徒への理解を深めます。

○学校自己評価（生徒・保護者アンケート）を年間2回実施し、実態や要望等を把握するとともに、日頃の指導を振り返ることで「子どもたちのための授業」創りを進めます。

(2) Bグループ 生徒一人ひとりの良さを認め合える教育活動を進める。

代表：脇濱 1年：綿谷・鈴木 2年：萩野・ルガール 3年：林

①生徒の自立に向けた取組を推進します。

- 体育祭や文化祭、生徒会活動を通して、生徒たちの自治的な活動を積極的に推進します。
- 自立の力を育むため、「見守る姿勢」を大切にした教師の関わり方と指導を追求します。
- 保護者や地域と連携したさまざまな体験学習活動（地域に学ぶ、職場体験学習、平和学習等）を推進します。

②お互いを尊重しあえる、人権感覚あふれる子どもを育成します。

- 「子どもたちの人権」を第一に考え、命を大切にする教育活動を推進します。
- 子どもたちが「人権」についてしっかりと考える場面を設定し、創造することを大切にします。
- 外部講師を招聘し、「差別」や「偏見」、「多様性」について講演を開催し、子どもの視野を広げる、思考を深める取組みを推進します。
- 道徳の授業を通して、子どもたちの人権感覚を育むとともに、教職員の指導力向上等につなげます。

③相談活動を充実させることで生徒理解を深め、全教職員でかかわる体制を創ります。

- 学級担任は毎日の「やりとり帳」をはじめ教育相談等を定期的に行い、生徒理解に努めると同時に、SC、心の相談員、教育支援センター、SSW等との日常的な連携を深めます。
 - 学級担任との教育相談、全員カウンセリング、保護者との教育相談や家庭訪問、校区人権フォーラム等さまざまな機会をとらえて生徒理解を深めます。
 - 職員間や地域・教育機関との丁寧な情報共有と連携をすすめ、生徒への理解を深めます。
- ☆すべての教育活動のベースにケアリングを位置づけるとともに、「生徒の居場所」づくりに努めます。（居場所：空間・ひと・関係性）

④子どもたちの豊かな心と健やかな体を育成します。

- 「あいさつ」をする「そうじを一生懸命行う」「時間を守る」「なかまどうしつながりあう」ことを学校生活の中で常に意識し、子どもたちに投げかけます。
- 部活動では国・県のガイドラインに沿って作成した「矢淵中学校部活動運営に関する指針」に則り、原則平日2時間、週休日3時間の活動をめどとします。
- また、勝利至上主義に陥ることなく、子どもたち一人ひとりが達成感を得られる場となるよう指導法の工夫に努めます。

(3) Cグループ

家庭や地域と連携し、「地域とともに育つ学校づくり」をすすめる。

代表：西濱

1年：山中

2年：久保田・室谷

3年：岩田

①学校教育活動の理解を得るための情報発信を積極的に行います。

- 学校ホームページやマチコミ(タイムライン)を活用し積極的な情報発信をすすめます。
- ☆学校・学年・学級だよりやブログ、保健通信などを積極的に発行します。
- 学校からの情報提供に対して、保護者や地域の方が質問や意見を述べられる機会や場面の設定に努めます。

②保護者や地域の方との積極的な交流を通して相互理解を高めます。

- 体育祭や文化祭等の行事、公開授業研究など、保護者や地域の方に学校に来ていただける機会を多く持つとともに、来校いただきやすい環境作りに努めます。
- ☆保護者や地域の方が、「学びの主体者」として教育活動に参画できる機会の設定に努めます。
- 家庭への連絡や家庭訪問及び保護者懇談会を開催し、子どもたちを中心に据えた、「想いの共有」に努めます。
- 地域で行われるさまざまな行事に対し、子どもたちが参加しやすい環境作りを進めます。

③学校運営協議会(コミュニティ・スクール)において保護者・地域・学校が連携し、地域が一体となり、子どもたちの育成について熟議を進め、学校運営の改善に反映させます。

- 学校教育へ直接的に参加いただき、地域に根ざした特色ある教育活動をすすめます。
- 学校アンケートや学校自己評価を実施し、年間を通しての取組改善に努め、学年度末に関係者評価を実施し次年度の学校改善につなげます。
- 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」のあり方を検討するとともに、更に充実させ、保護者や地域の方にも学校経営に参画していただきます。

※各グループは①～③または④の方針に対して○☆の具体的な取組をおこないます。

☆は R6年度新たに追加・修正した取組(チャレンジ)です。

ご家庭におかれましては、これらの具体的な取組(項目)について年2回(前期・後期)アンケートに答えていただきますようご協力おねがいします。

アンケートで頂いた結果やご意見等をグループ会議で検証しその後の取組に反映できるよう努めてまいります。

(4) Dグループ

「想い」を共有しチームで協働する学校運営体制を構築する。

代表：野地本 1年：脇濱 2年：西濱 3年：長嶺 岩本・谷本

①教育機関と連携し、全員で協働して学校運営に携わる「チーム矢淵」を構築します。

- 保護者、地域、教育機関と連携し、活発な情報交換をおこない、課題を見極め、全教職員が一丸となって組織的かつスムーズな学校運営に取り組みます。
- 「報告・連絡・相談」(ほう・れん・そう)を確実に実行することで十分な共通理解を深め、「計画→実行→検証→改善(PDCA サイクル)」を重視した学校運営をすすめます。そのためには、各教職員が自ら指導を行っていく当事者として、意識を強く持ち、取り組むよう心掛けます。

②生徒の成長にやりがいをもち、保護者とともに支援する教職員集団を目指します。

- 子どもたちの「よさ」を休憩時間に共有できる教職員集団を目指します。
- 校内労働安全衛生委員会を年3回程度開催し、数値目標を掲げるとともに、「計画→実行→検証→改善(PDCA サイクル)」において改善を目指します。
- 学年主任会議(教務会)や各種委員会(生徒指導委員会・特別支援委員会、予算委員会・員路指導委員会、学校行事实行委員会・教科部会など)の積極的な活用により、スムーズな学校運営に取り組みます。

③ワーク・ライフ・バランスを大切にし、教職員が安心して働ける学校づくり。

- 紀宝町教育委員会から出された「教職員の在校等時間の上限等に関する方針」に則り、教職員集団が自らの働き方を工夫、探究、創造し、教職員自身が豊かな心と健康を保ち子どもたちに向き合えるよう、働き方改革を推進します。
- 働き方改革の推進により、一人で課題・問題を抱え込まない、高い同僚性の構築に努めます。
- 会議時間の短縮を目指し、資料等事前の配布や「週案」の取組を推進します。
- 週1回の定時退校日を水曜日に設定し、見通しを持った執務を心掛け実現します。
- 部活終了後、2時間以内を目標に退校するように努めます。

※Dグループの具体的な取組やA～Cグループの取組の内容によっては、アンケートに答えにくい(学校の取組がわかりにくい)場合もあるかと思います。

矢淵中学校のHPにあるブログやまちこみのタイムライン、学校・学年通信や子どもたちのご家庭での会話等を通して回答の参考にしてください。